

平成25年度 施策達成度評価シート (24年度実績評価)

| 施策の柱 | | 施策 | |
|------|-------------|-----|----------------|
| コード | 名称 | コード | 名称 |
| 8 | 信頼される質の高い行政 | 83 | 市民とともにつくる行政の実現 |

| | |
|-----------|--------------|
| 評価責任者名 | 市長公室長 東藤 郁夫 |
| 評価シート作成者名 | 市長公室次長 藤澤 和義 |

1 施策の目的(目指す姿)

| 対象 (誰を, 何を対象としているのか) | 意図 (この施策により対象をどのように変えるのか) |
|-------------------------|------------------------------|
| 市民 | 市政に参画することができる |

2 達成度

(1) 成果指標

| 指標名 | 単位 | 指標の性格 | H23実績値 | H24計画 (年度目標値) | H24実績値 | H25計画 (年度目標値) | H26計画 (最終目標値) |
|--------------------------|----|-------|--------|------------------|--------|------------------|------------------|
| 市民参加を推し進めている累計事業数 | 事業 | ↗ | 86 | 103 | 119 | 110 | 110 |
| パブリックコメントに寄せられた1件あたりの意見数 | 件 | ↗ | 8.3 | 17.0 | 15.1 | 18.5 | 20.0 |
| | | | | | | | |

(2) 近隣自治体との成果水準比較

| 指標名 | 他自治体の状況等 |
|--------------------------|--|
| 市民参加を推し進めている累計事業数 | 盛岡市独自の数値のため比較データなし |
| パブリックコメントに寄せられた1件あたりの意見数 | 東北の県庁所在地で中核市である都市との比較 平成24年度 青森市 9.8件(案件14件 意見数 137) 秋田市 各部署で実施しており, 全体を集計していない。 |
| | |

3 達成度評価結果

| | |
|------------------------|--|
| 取組内容と成果 | パブリックコメントの件数は平成23年度に比べ, 実施件数で9件から13件と4件の増, 意見数は75件から196件と121件の増, 1件当たりの意見数は8件から15件へと7件の増となった。要因としては, 23年度は, 全体として意見数が30件や1件といった案件が散見されたのに対し, 24年度は盛岡市小中学校学校給食基本方針など, 身近で関心の高いものがあったことによる。 市民参加を推し進めている累計事業数は, 23年度は震災直後のため実施できなかった事業などにより22年度に比べ減少したが, 24年度においては, 地域協働モデル地区の拡大など協働事業を展開しており, 累計事業数が増加した。 |
| 成果を押し上げた要因 | 多様な主体が参画するまちづくりを柱とする自治体経営の指針及び実施計画により, NPO, 地縁団体, リーダーの育成や支援, 公募型協働推進事業制度を見直し, また民間委託, 指定管理者制度の活用など, 協働のまちづくりを積極的に推進することにより, 協働の意識が浸透してきたものと考えられる。 |
| 目標と成果とにギャップがある場合, その要因 | |
| これからの課題 | パブリックコメントについては, 案件によって, 意見数の開きがあり, テーマによって市民の関心度が異なり, 意見数に影響していると考えられる。そのため, 今後さらに「市民起点による市政」を推進するため, パブリックコメントの周知方法や資料を工夫するなど, できるだけ市政への関心を高めることに努め, 市民参画の機会の拡充を図る必要がある。 また, 広聴機能の充実の成果指標である市民アンケート調査による「市民意見が市政に反映されている」と答えた市民の割合は, 増加しているものの目標値に達していないことから, 市民意見把握のための新たな手法を確立するなどして市民の意見を聴く取組とともに, 市政に反映させていることを積極的に情報提供することが必要である。 |

3 各主体に期待する役割

| | 役割の内容 |
|--------------|---|
| 市 | 行政情報の提供においては事業の根幹部分全般を担うほか、市民の意見等を的確に把握し、市政運営を進める各過程や分野において、その反映に努めなければならない。また、市民要望や要求を行政だけで実現することが地域課題の解決ではなく、市民とともに地域課題を探り、ともに解決方法を話し合い、ともに解決に向けた活動をする仕組みを行政として構築する必要がある。 |
| 国・県・ 他自治体 | 行政情報の提供においては基本政策の推進を担う。 NPO法は形式審査だけで法人認証し、法人格を付与する画期的なものであるが、法施行から10年以上経過して踊り場に来ているとの見方もあることから、今後の継続的活動を担保するためには、財政面や税制面での支援が必要である。 |
| 市民・NPO | 市事業への理解と周知が求められる一方で、市政に高い関心を持ち、市政運営に対して積極的に要望、提言を行う役割を担う。自覚した市民による市民セクターの活動が、市民とともにつくる行政の実現に欠かせないファクターである。 |
| 企業・その他 | 市事業への理解と周知のほか、企業も地域社会の一員であり、企業の社会的責任(CSR)を果たすことが、いま求められている。 |

4 成果達成への基本事業の貢献度

| コード | 基本事業 | 比重 |
|-----|---------------|----|
| | 名称 | |
| 831 | 分かりやすい行政情報の提供 | 25 |
| 832 | 広聴機能の充実 | 25 |
| 833 | 市民参加の推進 | 50 |

平成25年度 施策達成度評価シート (24年度実績評価・基本事業の状況)

| 施策の柱 | | 施策 | |
|------|---------------|-----|----------------|
| コード | 名称 | コード | 名称 |
| 8 | 信頼される質の高い行政 | 83 | 市民とともにつくる行政の実現 |
| 基本事業 | | | |
| コード | 名称 | | |
| 831 | 分かりやすい行政情報の提供 | | |

| | |
|-----------|--------------|
| 評価シート作成者名 | 市長公室次長 藤澤 和義 |
|-----------|--------------|

1 基本事業の目的(目指す姿)

| 対象 (誰を,何を対象としているのか) | 意図 (この施策により対象をどのように変えるのか) |
|------------------------|------------------------------|
| 市民, 行政 | 行政が保有している情報を分かりやすく市民に提供する。 |

2 成果指標

| 指標名 | 単位 | 指標の性格 | H23実績値 | H24計画 (年度目標値) | H24実績値 | H25計画 (年度目標値) | H26計画 (最終目標値) |
|-------------------------------|----|-------|--------|------------------|--------|------------------|------------------|
| 開示請求及び情報提供件数(ホームページ新着情報件数含む。) | 件 | ↗ | 11,708 | 12,000 | 11,130 | 12,000 | 12,000 |
| | | | | | | | |

3 役割分担分析

| | | 役割の内容 | 役割分担 比率(%) |
|---------------|--------------|------------|---------------|
| 各主体の 役割の状況 | 市 | 事業の根幹部分全般 | 85 |
| | 国・県・ 他自治体 | 基本政策の推進 | 5 |
| | 市民・NPO | 市事業への理解と周知 | 5 |
| | 企業・その他 | 市事業への理解と周知 | 5 |

平成25年度 施策達成度評価シート (24年度実績評価・基本事業の状況)

| 施策の柱 | | 施策 | |
|------|-------------|-----|----------------|
| コード | 名称 | コード | 名称 |
| 8 | 信頼される質の高い行政 | 83 | 市民とともにつくる行政の実現 |

| 基本事業 | |
|------|---------|
| コード | 名称 |
| 832 | 広聴機能の充実 |

| | |
|-----------|--------------|
| 評価シート作成者名 | 市長公室次長 藤澤 和義 |
|-----------|--------------|

1 基本事業の目的(目指す姿)

| 対象 (誰を、何を対象としているのか) | 意図 (この施策により対象をどのように変えるのか) |
|------------------------|------------------------------|
| 市民 | 市民意見が市政に反映される |

2 成果指標

| 指標名 | 単位 | 指標の性格 | H23実績値 | H24計画 (年度目標値) | H24実績値 | H25計画 (年度目標値) | H26計画 (最終目標値) |
|-------------------------------------|----|-------|--------|------------------|--------|------------------|------------------|
| 市民アンケート調査「市民意見が市政に反映されている」と答えた市民の割合 | % | ↗ | 22.6 | 40.0 | 24.9 | 40.0 | 40.0 |
| | | | | | | | |

3 役割分担分析

| | | 役割の内容 | 役割分担 比率(%) |
|---------------|--------------|---|---------------|
| 各主体の 役割の状況 | 市 | 市民の意見等を的確に把握し、市政運営を進める各過程や分野において、その反映に努めなければならない。 | 50 |
| | 国・県・ 他自治体 | | |
| | 市民・NPO | 市政に高い関心を持ち、市政運営に対して積極的に要望、提言を行う。 | 50 |
| | 企業・その他 | | |

平成25年度 施策達成度評価シート (24年度実績評価・基本事業の状況)

| 施策の柱 | | 施策 | |
|------|-------------|-----|----------------|
| コード | 名称 | コード | 名称 |
| 8 | 信頼される質の高い行政 | 83 | 市民とともにつくる行政の実現 |

| 基本事業 | |
|------|---------|
| コード | 名称 |
| 833 | 市民参加の推進 |

| | |
|-----------|--------------|
| 評価シート作成者名 | 市長公室次長 藤澤 和義 |
|-----------|--------------|

1 基本事業の目的(目指す姿)

| 対象 (誰を、何を対象としているのか) | 意図 (この施策により対象をどのように変えるのか) |
|------------------------|------------------------------|
| 市民・NPO団体等 | 自主的にまちづくりの一翼を担う |

2 成果指標

| 指標名 | 単位 | 指標の性格 | H23実績値 | H24計画 (年度目標値) | H24実績値 | H25計画 (年度目標値) | H26計画 (最終目標値) |
|---------|----|-------|--------|------------------|--------|------------------|------------------|
| NPO団体等数 | 団体 | ↗ | 127 | 130 | 132 | 140 | 120 |
| 協働事業の件数 | 件 | ↗ | 212 | 180 | 223 | 250 | 255 |
| | | | | | | | |

3 役割分担分析

| | | 役割の内容 | 役割分担 比率(%) |
|---------------|--------------|---|---------------|
| 各主体の 役割の状況 | 市 | 市民要望や要求を行政だけで実現することが地域課題の解決ではなく、市民とともに地域課題を探り、ともに解決方法を話し合い、ともに解決に向けた活動をする、仕組みを行政として構築する必要がある。 | 35 |
| | 国・県・ 他自治体 | NPO法は形式審査だけで法人認証し、法人格を付与する画期的なものであるが、法施行から10年以上経過して踊り場に来ているとの見方もあることから、今後の継続的活動を担保するためには、財政面や税制面での支援が必要である。 | 20 |
| | 市民・NPO | 自覚した市民による市民セクターの活動が、市民とともにつくる行政の実現に欠かせないファクターである。 | 35 |
| | 企業・その他 | 企業も地域社会の一員であり、企業の社会的責任(CSR)を果たすことが、いま求められている。 | 10 |